

平成26年度第2回鎌ヶ谷市史編さん審議会議事録

- ①開催日時 平成27年2月20日(金) 10:00~12:00
- ②開催場所 鎌ヶ谷市立図書館3階 保育室
- ③出席者 委員 下津谷達男会長、村田一二副会長、横山謙次委員、
小出達雄委員
事務局 川西教育長、立野郷土資料館長(兼)学芸員、
手塚主事(兼)学芸員
- ①議題 以下のとおり

※傍聴者なし

1 開会(司会:立野郷土資料館長)

2 会長あいさつ

3 教育長あいさつ

- ・あいさつののち教育長所用のため退席
- ・会議録署名人に村田一二副会長を選出

4 議事(司会:下津谷会長)

■ (1)平成26年度市史編さん事業報告について

事務局より資料1・2に基づき説明があった。

質疑

【村田委員】 近・現代部会の市外史料調査先として、公益社団法人全国市有物件災害共済会防災専門図書館という機関が挙げられているが、この団体はどういった団体でどこに所在しているのか。

【事務局】 同団体は、市が所有する物件が災害等で毀損した場合、大変大きな負担と

なることから、その負担を軽減するために設けられた共済会である。同会は、災害資料の収集、調査なども行っている。場所は地下鉄永田町駅付近である。

【村田委員】 『鎌ヶ谷市史』上巻（改訂版）の正誤表作成で、中世部会が若干予算を超えているとのことだが、上巻ということであれば担当だった原始・古代部会から支出されるのではないのか。

【事務局】 上巻執筆に関わっていた中世部会団員が正誤表作成に要した日数であるので、中世部会より支出している。

→質疑の後、議事（１）は承認された。

■ （２）平成27年度市史編さん事業計画(案)及び予算(案)について

事務局より資料３・４に基づき説明があった。

【村田委員】 近・現代部会と民俗部会に調査員賃金が計上されているが、単価が異なっているのはなぜか。

【事務局】 調査員の賃金は事業団の定めている基準によっており、専門的知識に応じて単価が異なっている。民俗部会の調査員は、正確には"調査補助員"という位置づけであり、近・現代部会調査員よりも単価が低くなっている。

【小出委員】 自然部会に調査費はほとんど計上されていないが。

【事務局】 自然部会については膨大な調査を行い、資料編、本編が完成したため主たる活動は終了している。現在は、部会長１人が残っており、補充調査分の予算は計上しているがそれ以外の予算は計上していない。

【小出委員】 現在進行形で変化している自然の調査というのはできないということか。

【事務局】 大規模なものは難しい。

【小出委員】 具体例をいえば、北部小学校の近くに巨木に生えているコブシの１番大きいものがある。これが木蔭で弱ってきている。鎌ヶ谷で１番大きなコブシだということはいっているが、どこに現状を伝えるかということがある。市役所の前のヒマラヤスギも弱っている。生き物は現在進行形ですから。

【事務局】 民俗部会も既に終了しているが、近年２０年ぶりにオビシャなどの市内民俗行事の補充調査を部会長と事務局で行っている。近世部会でも近世史料が出て来たため調査を行う予定であり、自然部会についてもそのような形での調査は可能である。

→質疑ののち、議事（２）は承認された。

■ （３）鎌ヶ谷市史編さん事業団員の再任について

事務局より資料5に基づき説明があった。

質疑

【事務局】 市史編さん事業団の団員の方の任期が3月で満了となり、4月から新しい任期ということになる。担当する書籍の刊行が終わった部会については、役員となっている方以外は任期満了となる慣例であり、これまでも中世・近世・民俗・自然の各部会がそのような形で縮小している。団員の選任については、事業団の規約のなかで、団が選考し教育長が承認するという手続きとなっており、先日団のほうで原始・古代部会に属する5名の団員について、3月末で任期満了により退任いただくこととなった。

【下津谷委員】 慣例に従ってということだが、3月末に退任する方に何かを送ったりはするのか、それとも自然と退任ということになるのか。

【事務局】 お礼状を差し上げることが慣例となっている。

【下津谷委員】 ぜひそうして下さい。

→質疑の後、(3)は承認された。

■（４）鎌ヶ谷市後期基本計画第3次実施計画における市史編さん事業及び関連事業について

事務局より資料6に基づき説明があった。

補足説明

【事務局】 市史については第2次実施計画時の予算と比べて少し予算額が減少しているが、編さん事業が終了する平成28年度まで計上された。

引き続き、資料を市民に広く公開し利用していただくための事業を、平成29年度からの4年間にさせてほしいと要求したが、実施計画に位置づけられるまでには至らなかった。

収集史料閲覧・公開環境整備事業については、千葉県内に事例がないということと、市民ニーズが不明であるということで見送りとなった。千葉県内ではもし鎌ヶ谷市が実施すれば千葉県内最初の取り組みとなるが、千葉県外まで広げると近隣では神奈川県藤沢市、同寒川町、埼玉県久喜市、同八潮市などで行われている。今後は他の市町村の事例を調べていくとともに、市民の利用ニーズの把握、本審議会などで広く意見を伺うなかで平成28年度に行われる実施計画策定時に向けて検討を進めていきたい。その一環として本日郷土資料館の状況を視察していただいた。今後も、収集した資料の収蔵状況などをご覧になっていただく予定である。

質疑

【下津谷委員】市史の刊行事業は、平成28年度に終わるが、その後集まった資料をどうするのかということは非常に重要な問題である。郷土資料館に集めたものが入っているが、今日ご覧になっていただいたように、収蔵庫に箱詰め積んである。目録はあるといっても一般利用にはほど遠い。収蔵庫一杯に史・資料が置かれたあの状況では、館の職員が必要な物を出そうとするときも一苦労ではないか。そうなる施設の問題が出てくるため大変な問題となるが、さしあたってどうやって民間の皆さんに喚起するのかという問題がある。私は視察して思ったが、例えば市議会議員の皆さんに見てもらうことも1つの考えではないか。

【事務局】 そのような声があがってくることは理想的である。

【横山委員】 他の市町村でもあるが、市史が進んで史料を持ち主に返した後、市で再度史料を借用にいったところ、所蔵者が市役所から帰ってきたから不要な物だと思って処分してしまったという話がある。今日見た限り、収集した資料が大量にあるため、すぐに利用出来ないような状況がある。収蔵する場所を何とか市の方で確保出来ないのかと思う。利用が少ない物は少し遠いところに置いたとしてもである。また、閲覧についても、例えば図書館と協力して図書館で閲覧出来るようにするという形も考えられる。あと2年しかないということだと史料に埋もれていってしまう。

展示だけでなく、バックヤードも見てもらって関心を持ってもらうべきである。例えば議員さんであれば、近・現代の文書は議会で質問をするときの資料としての調査といった用途もある。その他の史料についても新しい史料も出てくるし、市史がすべて刊行されたから終わりということではなく、その後の手当を職員も含めてお願いしておきたい。これが5年、10年も経つと收拾がつかなくなってしまう。継続して出来る方法をお願いしたい。執筆にあっていた団員が減っていくというのは仕方が無いが、史料の整理や目録整備なども行っていた調査員の方の手当は欠かさずおいてほしい。

【村田委員】 今日教育長さんにも見てもらったのは良かったと思う。たくさんの史料を収集し、調査し活用してやると市史がでるということも、あらためて理解を深めていただいたと思う。先程来、市民の方などにバックヤードも含めて見てもらおうという話がでていたが、それ以上に予算編成に当たっている職員も見られるといい。まずそれが必要である。

収蔵庫の問題が先程から出ているが、じゃあ空いてる学校におけばいいという話になるかもしれない。しかし、問題は置くところがあったらそれでいいということではないということである。それをきちんと収集、調査、活用することが重要である。鎌ヶ谷市の場合、子どもが増えているので空いてい

る学校にというのは難しいが、公民館の空いているところでいいか、という
ような事例が他市では出て来ている。しかし、置いておけばよいというもの
ではないということをもっと言わないといけない。

もう1つは、他市の事例がないからということだが、他県にあればそれは
前例である。必要だからやるのであって、千葉県内にないからやらないとい
うのはそれほどネックにはならない。しかし、2点目の市民ニーズという点
については、事業の必要性について理解してもらうための説得材料を考える
必要がある。講座・教室等の行事でたくさんの方が来たという事もあるだろ
うが、それ以上に市民ニーズがあるということを説明する論理が必要である。
他市の事例を検討して、説得力のあるデータを蓄積していく必要がある。

【横山委員】 他にないということだが、私も史料修補で関わりがある船橋市西図書館で
は、そこには郷土資料室があり、船橋市だけではなく千葉県に関する史料を
収集していて、そういった史料を古文書一般の方や研究者が閲覧出来るよう
になっている。図書館との連携も図っていくべきである。

【小出委員】 市内に茂野製麺という会社があるが、その会社の先代が会社が出来てから
のことを書いた文書があるということで図書館で調べたがなく、茂野製麺に
聞いてみてもないという。ただ、図書館の方が茂野製麺に問い合わせた
だけ、1部が図書館に寄贈された。先程市民ニーズが不透明とあるが、これ
は1つの具体的な事例である。

また、千葉県内に事例がない、ないからやらない、ではない。ないからこ
そやるということ考えでなければ。先端的な事例になりましょうという考え方
をしてもらった方がいい。

【下津谷委員】 市民ニーズの話があったが、そもそもどんな史料があるのかというこ
とが分かっていなければ利用のしようがない。こういうものがあるんだとい
うことをどんどん出していかないと利用しようと思っても利用出来ない。

【村田委員】 船橋市西図書館の話があったが、郷土資料室の職員に聞けばだいたいのこ
とがわかるようになっている。図書館との連携によって、そういった場所が
あってもよい。また、それが市民ニーズにもつながっていく。

【事務局】 今後も色々なご意見をいただければと思う。図書館との連携については、
近年連携が深まっている。図書館の講座で郷土資料館の職員が話をしたり、
新年度は展示の関係で一緒の事業をしようという話を進めている。郷土資料
室は鎌ヶ谷市の図書館にもあるが、郷土資料については郷土資料館で所蔵し
ている方が圧倒的に多い。図書館との連携については今後も協議をしていき
たいと思う。利用の促進については、写真利用は現在もあり、レファレンス
についても行っている。博物館法における博物館の業務として、あるいは条
例上で明確には位置づけられていないが、現実問題としては行っているし、

そういった利用の方が多くなってきているので周知していきたい。ただ、その前提として、こういった史料があるのか、何が利用出来るのかを整備する必要がある。現状は私や手塚主事がその都度対応しているが、リストを作っ
て見てもらえるほうがよく、そういった事業を行いたいと考えている。

なお、文化・スポーツ課文化係では、第3次実施計画に関連して、埋蔵文化財の収蔵スペースが逼迫しているとともに、文化係と資料館の共同プレハブ倉庫も老朽化が進んでいるため、新たな資料活用と収蔵のための施設設置について要求したところだが、こちらも計上されなかった。引き続き協議していきたい。

【下津谷委員】レファレンスも重要な市民ニーズの1つである。統計をきちんと取っておいた方が良い。レファレンス対応のためにも、整理は必要である。

→質疑の後、(4)は承認された。

5 その他

■ (1)平成26年度企画展・第15回ミニ展示について

資料7・8・9に基づき事務局より説明があった。

質疑

【村田委員】 常設展示パネルを新しくするとのことだが、最近の他館のパネルを見ると、段落の1番はじめを1字分下げないで詰めているものが結構ある。普通の日本語のルールでは1字分下げるべきだが、今回のパネルはどうなるのか。また、なぜああいうものが増えたのか。

【事務局】 今回のパネルでは、段落のはじめは1字分下がっている。1字分下げないで文章が始まっている理由は承知していないが、おそらくはデザイン上の問題かと思われる。

■ (2)平成27年度の郷土資料館の展示について

事務局より資料10に基づき報告があった。

質疑

【村田委員】 ミニ展示で終戦70周年記念の展示を行うにあたり、教育委員会学校教育課指導室とも連携するということである。指導室の教員に、事前に展示パネルを見てもらい、意見をもらうことも考慮してほしい。

■ (3)その他

事務局より、当日行われた郷土資料館内の視察に関連して、市内にある史料の状況について補足説明を行った。

7 閉会

以上会議の経過を記載し、相違ないことを証する。

平成 27 年 4 月 8 日

署名人 村田 一二 ⑩